

川口敷美

中学校時代の仲間

高校 3 回卒業生は昭和 20 年 4 月に旧制中学に入学し、その年の 8 月に終戦を迎え、昭和 23 年、中学 4 年生になるときに、新制高校が発足して高校 1 年生となり、新制高校生活を 3 年間過ごした初めての者達である。

終戦の翌年の 21 年に、当時は蹴球部とっていたが、サッカー部が再建された。余談になるがサッカー部の襟章、のバッジを作ったが Socker で Soccer ではなかった。

中学時代の部員には内田豊、川口敷美、篠島弘一、下沢裕、渋谷洋右らが出て、渋谷は中学 3 年生で青年部のレギュラーとなった。他の者達は中学 3 年以下の少年部で活躍した。

高校時代の仲間

高校が発足したとき、内野国雄が入部してきて、23 年度のレギュラーにはゴールキーパーに内野、ハーフに渋谷、インナーに川口らが入っていた。2 年生の時には渋谷が退部して、24 年度のレギュラーは内野と川口の 2 名で、同期生部員は両名だけとなった。

最上級生になったときにはレギュラーの卒業生を 7 名も送り出し、その上、1 年生のレギュラーであった井上洋輔も退部して、25 年度のレギュラーは新人 8 名という戦後では最も弱体化したチームになると受け取られたようだった。

古株ということもあって川口をキャプテンに選出して、25 年度が始まった。

練習方法

このチームへの期待が薄かったせいか、毎年外部から招いていたコーチも呼ばないということに決められてしまった。大変悔しかった。

今年期待されないなら来年のためになることをと考えて、基礎体力作りから始めることにして、徹底的に走り込みを行った。グラウンドから大久保神社・競輪場前・青橋・百段坂・グラウンド回り、来る日も来る日も走

り込んだ。また、部員の意識の高揚のため、2 年生に交替で準備体操の「号令掛け」をやってもらったり、練習も従来のやり方だけでなく、例えば、ボレーキックの練習には篠竹の先端を十字に割ってそれを地面に立て、その上にボールを乗せてキックするなどの工夫も行った。

戦績

新チームは戸田達雄監督、指導は当初は小倉真一郎先輩が、後に内野茂先輩がみて下さった。

春季リーグ戦ではあまりよい成績ではなかったが、国体県予選では決勝まで進むことができた。ルールをよく守るだけでなく、フェアプレーをするチームとして評判が高かった。その年の全国大会県予選は、どういう事情か分からないが行われず、県代表は協会を決めるということになって、小田高が推薦された。前年までは埼玉県や栃木県と同じブロックであったが、この年の南関東地区は東京都と千葉県という組み合わせとなる運もあって、代表になることができた。

全国大会

第 29 回全国高等学校サッカー選手権大会は日本蹴球協会と毎日新聞社の共催で西宮球技場で行われた。参加は北海道、東北、北陸、中部、四国、九州が各 1 校、関東、中国が各 2 校、東海、近畿が各 3 校の 16 チームであった。静岡高と宇都宮高の決勝になるとの大方の予想であった。

1 回戦を突破すれば宝塚を観劇させるとの香川校長の約束にもみられるように、大会出場だけでも果たせたことに満足していたように思われる。

神戸高、刈谷高、高知農高に辛差で勝って、宇都宮高との決勝戦となったが、大差で敗退した。後で知ったことだが、宇都宮高は 3 年連続全国大会出場レギュラーとして 6 人は 3 回目、4 人が 2 回目で初出場は 1 名で、前年は準優勝していた。宇都宮高の記録によれば、2 回逸した制覇を今年こそは実現するため、全国制覇を目標にきつい練習を

したという。決勝戦で負ける気はしなかったし、何がなんでも勝とうと最後まで戦ったと。

新聞の「戦評」に「・・・最後まで試合をすてなかった小田原の高校生らしい熱と意気は十分に称うべきであった。」とあるように頑張り抜いたが、選手も周りも敗れても準優勝であるという気持ちがあつて、宇都宮の気迫に負けていたように感じる。この頃、ベストイレブンという選り方はなく、優秀選手 10 名をあげているが、宇都宮高 4 名、関西高 2 名、岸和田高、刈谷高各 1 名、小田原高 2 名で内野国雄と川口が選ばれた。

教育サッカー

期待されなかったチームがここまでできたのは指導して下さった先輩の力もさることながら、レギュラーを一度も経験しなかった選手たちがレギュラー練習の球拾いやグラウンド整備などを惜しみなく支援したこと、部員全員が本当にサッカーが好きな連中の集まりであったこと、また、どれほど技術は上手でも練習をさぼるような者はレギュラーにしないという部全体の方針が、功を奏したものであると思っている。あくまで教育の一環としてのサッカーで、オリンピックの選手を育てるためのサッカーではなかった。言い換えれば、現役のサッカー部であつて、監督やコーチや先輩のためのサッカー部ではなかったように思う。本当に OB 会には経済的にも精神的にも支援を受けた。感謝しています。